

**【平成 31 年・令和元年労働災害発生状況の分析の概要】****1 死亡災害発生状況 ※1**

労働災害による死亡者数は 24 人で、平成 30 年の 34 人に比べ 10 人 (29.4%) の減少となり、過去最少となった。主な業種別では、建設業が 10 人 (前年から増減なし)、製造業が 2 人 (前年比 4 人・66.7%減)、陸上貨物運送事業が 2 人 (前年から増減なし) となった。

※1 死亡災害報告をもとに、死亡災害を集計。(通勤中に発生した災害の件数は含まない。)

**2 休業 4 日以上之死傷災害発生状況 ※2**

労働災害による休業 4 日以上之死傷者数は 7,095 人で、平成 30 年の 6,920 人に比べ 175 人 (2.5%) の増加となった。

主な業種別では、

製造業が 1,061 人 (前年比 17 人・1.6%増)、建設業が 808 人 (同 81 人・11.1%増)、陸上貨物運送事業が 981 人 (同 1 人・0.1%減)、小売業が 917 人 (同 20 人・2.1%減)、社会福祉施設が 723 人 (同 89 人・14.0%増)、飲食店が 399 人 (同 21 人・5.6%増) となった。

※2 事業者から提出される労働者死傷病報告書をもとに、休業 4 人以上之死傷者数を集計。(通勤中に発生した災害の件数は含まない。)

### 3 事故の型別による死亡災害・死傷災害発生状況

#### (1) 死亡災害

死亡者数の多い順で、「墜落、転落」が11人（前年から増減なし）、「交通事故（道路）」が6人（前年比1人・20%増）発生した。また、機械等による「はさまれ、巻き込まれ」が1人（同5人・83.3%減）、「転倒」が1人（前年から増減なし）のほか、「激突」、「激突され」、「崩壊、倒壊」、熱中症による「高温物との接触」、「その他」で各1人発生した。

#### (2) 死傷災害

死傷者数の多い順で、つまずき等による「転倒」が1,684人（前年比25人・1.5%増）、腰痛等の「動作の反動、無理な動作」が1,177人（同7人・0.6%減）、高所からの「墜落、転落」が1,162人（同90人・8.4%増）となった。

### 4 年齢階層別による死亡災害・死傷災害発生状況

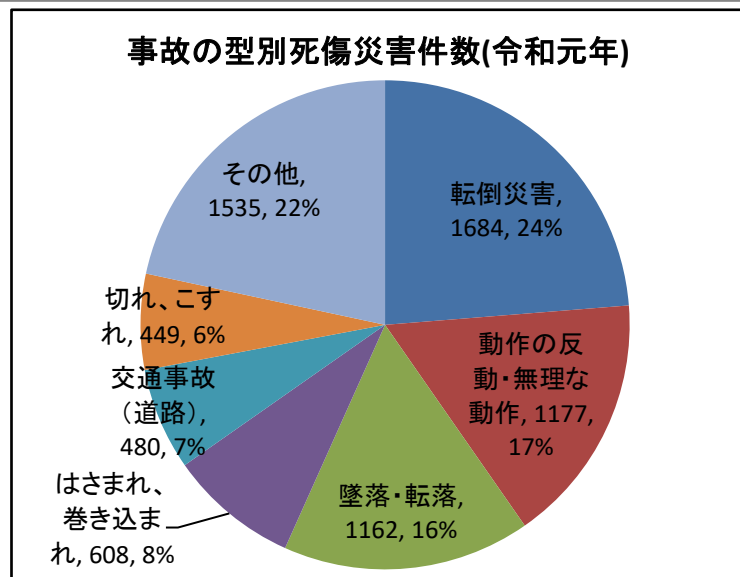
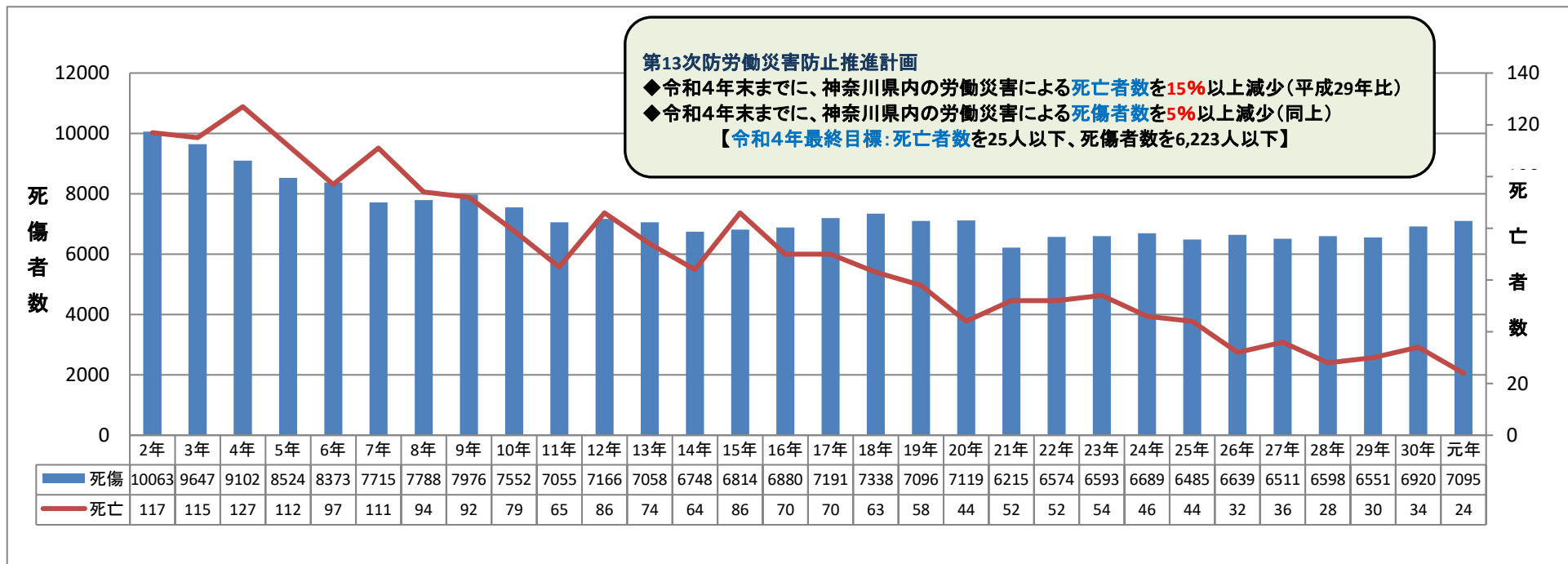
#### (1) 死亡災害

死亡者数の多い順で、50～59歳が10人、60歳以上が6人となり、50歳以上の層（16人）が全体（24人）の66.7%を占めた。

#### (2) 死傷災害

死傷者数の多い順で、50～59歳(1,832人、25.8%)、60歳以上(1,779人、25.1%)、40～49歳が(1,593人、22.5%)となった。50歳以上の層は3,611人（前年比278人増加）と全体の50.9%を占め、初めて50%以上となった。また、60歳以上の層も初めて25%以上となった。

## ■ 労働災害発生状況(神奈川県労働局)



**STOP!**  
 転倒災害プロジェクト神奈川

「滑り」、「つまずき」、「踏み外し」などによる転倒災害を防止しましょう。